

1月31日(水) 朝礼のお話し

「ありがとう」のない村

今日は「ありがとうのない村」というお話をします。

その村はアフリカのエチオピアという国にあります。この村には「コエグ族」という人たちが暮らしています。コエグ族の村は私たちの町とはずいぶん違って町にはビルもありませんし、家々には電気も水道もありません。村の人たちは畑を耕して主食のトウモロコシを作り、森から木を切ってきて生活に使っている、そんな村です。私たちから見るととても厳しい生活のように思えますね。そしてこの村では主な食べ物であるトウモロコシがいつでもたくさんとれるわけではありません。必要な量の半分以上しかとれないことがほとんどだそうです。だから食べものの入っている倉庫はいつも空っぽに近い状態です。でも、村の人たちはそれを心配したり、不安になったりはしないそうです。どうしてでしょう？

それはコエグ族では食べ物などが足りなくなったら、親せきや友達が助けてくれるのがあたり前だからです。その助け合いのネットワークは親せきや自分の村の中だけではなく、他の村々にもつながっているのだそうです。だから食べ物に困るようなことがほとんどないのだそうです。もちろん、自分たちがもらっているだけではなく、どこかの人が食べ物にこまっていたら自分たちの食べ物を分けてあげることもごくふつうにするわけです。

と言うわけで、お互いに助け合うことがあたりまえのコエグ族の言葉には日本語の「ありがとう」にあたる言葉がないのだそうです。だから誰かが誰かをたすけても何も言わないということです。これは私たち日本人からするとかなりびっくりすることですね。

日本語の「ありがとう」は「有り難い」ということばからできています。「有り難い」は「有ることが難しい」と書きます。だから「ありがとう」とは「あなたのしてくれたことは、誰にでもできることでない、そんなめずらしいことをして私を助けてもらってうれしい」と言う気持ちを伝える言葉です。この言葉は日本人らしい心を表していてすばらしい言葉だと思います。日本人は誰かに助けてもらおうということを「なかなかできない、誰にでもできることではない」と考え、大切にしているということです。これはこれで素晴らしいことです。でも、考えてみるとコエグ族のように「助け合うのがあたり前だからお礼の言葉もない。」という考え方もちょっとすてきですね。

今日は「ありがとうのない村」と言うお話をしました。今日も最後まで一生懸命聴いてくれてありがとうございました。お話を終わります。